

# はじめに

鉄道の輸送は人を運ぶ旅客輸送と、物を運ぶ貨物輸送の2つに分けることができます。言うまでもなく、鉄道の「人を運ぶ」という側面は、鉄道に乗るという行為を通して私たちが自然と触れている部分です。諸外国に比べ日本における鉄道のプレゼンス 存在感 が高いのは、都市間を高速で結ぶ新幹線に代表される「高速性」や都市鉄道に代表される「大量輸送性」という鉄道の特性を引き出して、旅客輸送で活発な輸送が行われているからです。

鉄道が担うもう1つの輸送である貨物輸送は、今この冊子を読んでいる皆様にとって、日頃意識することがない馴染みのない部分であることは、否定できない事実です。また趣味的な見地で見ても、華やかな旅客輸送に比べると地味という印象がぬぐえず、わりあい研究の対象とされることが少なかつたように思われます。

事実、全旅客輸送人員に占める鉄道の割合は25.4%であるのに対して、全貨物輸送トン数のそれは0.9%にしか過ぎません(国土交通省『交通関連統計資料集』平成19年度のデータより)。鉄道という視点のみならず、物流という視点から見ても、鉄道による貨物輸送の存在感は低いように思われます。

しかしこのように劣勢な中でも、鉄道の貨物輸送の魅力を高める様々な取り組みがなされています。大幅なシェアの増加は難しいですが、工夫や改善の余地は残されており、今後も物流において鉄道の貨物輸送は、その強みを活かして一定のシェアを維持するものと考えられます。

本研究誌では鉄道の貨物輸送を考察し、今後の鉄道貨物輸送のあり方について考えています。第1部では物流とロジスティクスという概念、国の物流政策、現在に至るまでの貨物輸送量の動向、他の貨物輸送機関の沿革や特徴、以上4点の考察を通して、鉄道貨物輸送を取り巻く物流の現状を概観しています。第2部では本研究誌のテーマである鉄道の貨物輸送につい

て、深く掘り下げ記述をしています。まず鉄道貨物輸送の歴史を振り返った上で、車扱輸送とコンテナ輸送という2つの輸送形態、JR貨物が貨物輸送を行う上で必要となる線路使用料の仕組みとその問題点、鉄道貨物輸送が強みを発揮する中長距離輸送、同じく強みである環境優位性という4つのトピックを考察しています。また、JR貨物が取り組んでいる国際貨物輸送サービス“SEA&RAIL”を取り上げ、鉄道貨物が国際貨物輸送で果たす役割について考えています。最後の第3部では、第1部や第2部で行った考察と今後予想される鉄道貨物輸送における問題点を踏まえて、その将来を考えます。

なお今回のテーマは鉄道貨物輸送ですが、主としてJR貨物を取り上げ、臨海鉄道や民営鉄道の貨物輸送に関しては必要部分のみでの記述にとどめてあります。また対個人輸送の考察は割愛させて頂きましたので、その旨ご了承下さい。

この研究誌が、旅客輸送の影に隠れがちな鉄道貨物輸送の現状を読者の皆様に伝え、今後の鉄道貨物輸送について考えるきっかけとなれば幸いです。